

関原三丁目町会 地区防災計画

令和2年3月 策定

令和6年3月 修正

関原三丁目町会

目次

1 地区防災計画とは	1
(1) 地区防災計画の目的と位置づけ.....	1
(2) 地区防災計画の対象、範囲等.....	1
(3) 地区防災計画の構成.....	2
(4) 実践と検証.....	3
2 地区特性	4
(1) 地区の成り立ちと現況.....	4
(2) 地震の被害想定.....	9
(3) 水害の被害想定.....	12
3 地震発生時の対応シナリオ	15
(1) 地震発生時の対応シナリオ.....	15
(2) 地区防災マップ.....	15
(3) 話し合いによる検討.....	20
4 水害時の対応シナリオ	27
(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要.....	27
(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ.....	27
(3) コミュニティタイムライン.....	27
5 関原三丁目町会における平時の備え	34
(1) 事前対策リスト.....	34
(2) 体制づくり.....	36
※ 様式・資料編	39
資料1 様式集	40
参考様式1 緊急時連絡先一覧表.....	40
参考様式2 備蓄品リスト.....	41
参考様式3 町会年間スケジュール.....	42
参考様式4 防災区民組織名簿.....	43
資料2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」	44
資料3 A-メール（足立区メール配信サービス）	44
資料4 あだち安心電話	45
資料5 感震ブレーカーの設置助成	46
資料6 防災無線のテレホン案内	47
資料7 足立区 LINE 公式アカウント	47

1 地区防災計画とは

(1) 地区防災計画の目的と位置づけ

私たちの住む地域は、建物が密集し、古い建物や木造の建物が多く、震災時の倒壊や火災の延焼の危険性が高い地区です。また、震災時に利用できる道路が狭く、身近な広場や公園が不足するなど、東京都の地域危険度などの調査でも地震被害における危険度が高い地域です。

また、東日本大震災や熊本地震などの近年の災害においては、地域住民自らによる「自助」、地域コミュニティによる「共助」が、避難行動、避難誘導、避難所運営等において重要な役割を果たしています。

そこで、関原三丁目町会では、自助・共助による地域防災力を向上させ、地区の被害を軽減することを目的に、「関原三丁目町会地区防災計画」を策定しました。

また、令和5年度には計画の見直しを行いました。

地区防災計画は、災害が起きることを想定し、そのための準備と災害時の自発的な行動を検討し、私たち地区に居住する者が自らつくる計画です。
今後、必要に応じて改定していきます。

(2) 地区防災計画の対象、範囲等

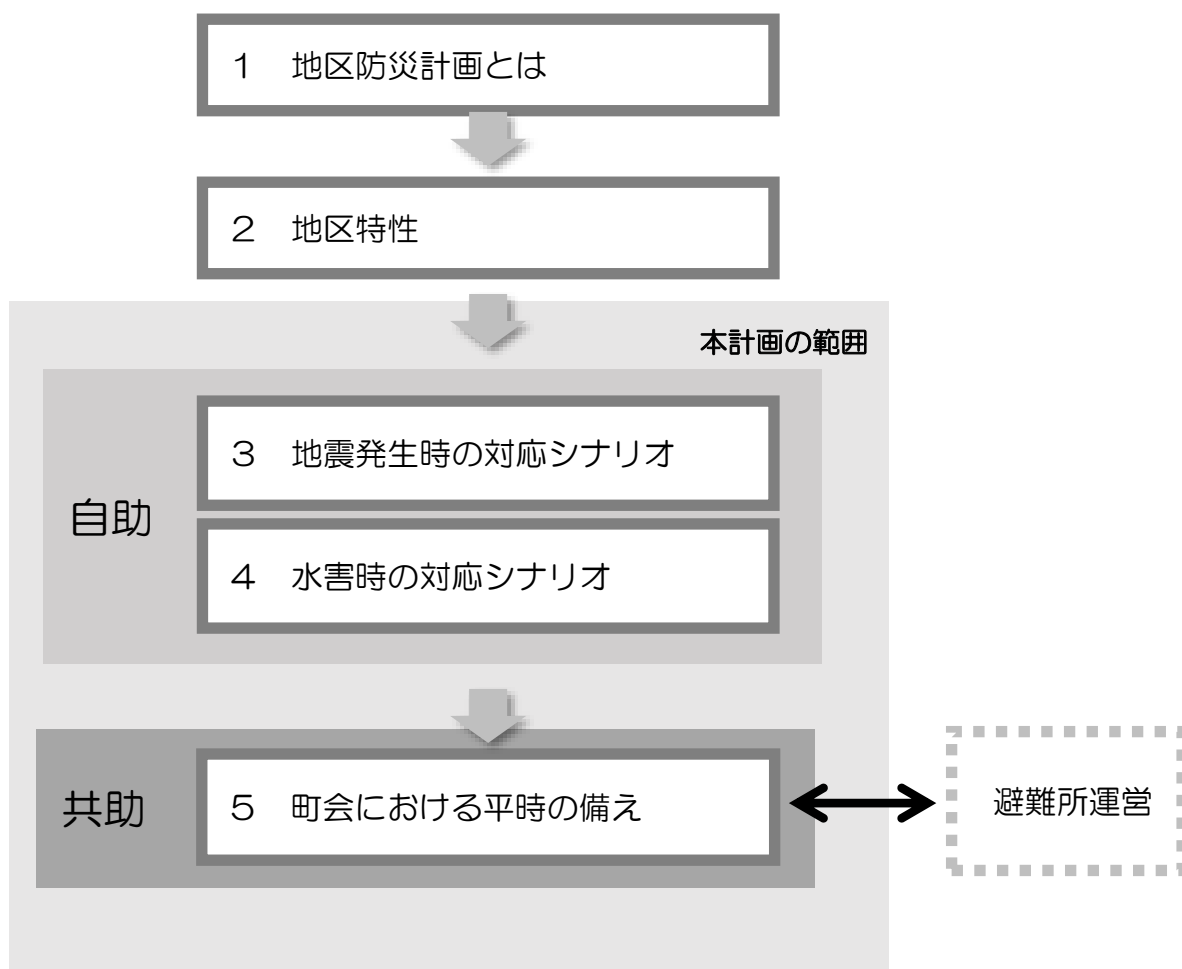
対象とする災害	地震・水害 〔 令和元年度は地震に重点をおいて検討 水害についても記述あり 〕
対象とする範囲	関原三丁目町会 (第一次避難所、避難場所への避難経路も対象)
対象者	関原三丁目町会の居住者、事業者など町会内にいるすべての人
対象時期	地震；地震発生時～初動活動～避難行動 水害；台風接近時～準備行動～避難行動

(3) 地区防災計画の構成

本計画では、「2 地区特性」で自分たちの地域について知るための資料を整理し、「3 地震発生時の対応シナリオ」、「4 水害時の対応シナリオ」で地域住民自らによる「自助」、すなわち、地震や水害が発生した場合にどこに、どのように避難するかを整理し、さらに当町会の地区防災マップを作成しました。

「5 町会における平時の備え」では、町会及び地区住民等において進めるべき「共助」の考え方、平常時において準備しておく事項等を記載しました。

最後に、資料として情報収集の手段について記載しています。

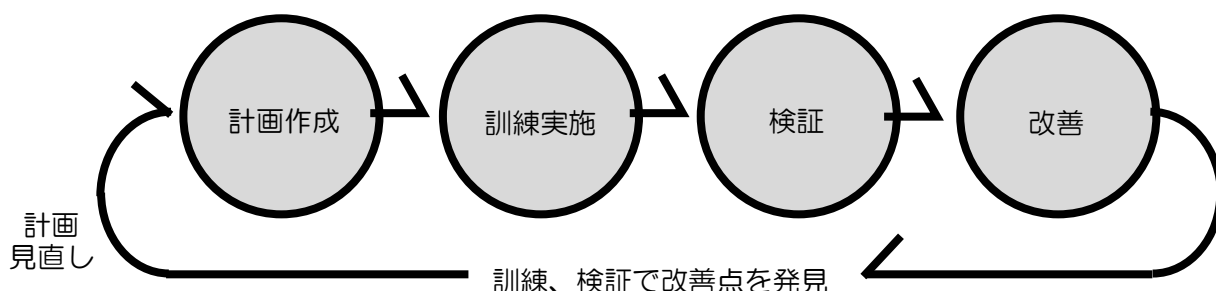


注) 本計画では、地震については、発生直後から、避難するまでの考え方や手順を整理し、避難所を設置したのちの避難所運営は、他の計画（避難所マニュアル等）に従うこととします。

(4) 実践と検証

計画を形骸化させないための取り組みを以下のように行います。

実践と検証の流れ



実践

計画に基づいた防災訓練を行います。

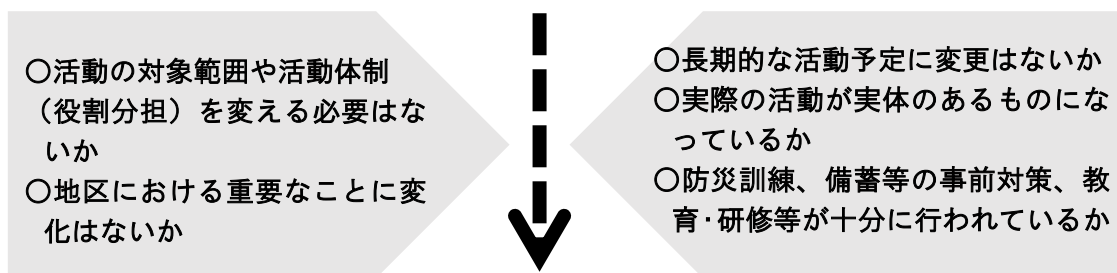
■防災訓練

避難時の訓練	応急訓練	避難後の訓練
<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練 ○避難所・避難路・避難場所等の確認 ○避難経路上の危険箇所の確認 ○要配慮者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○初期消火訓練 ○救急応急措置訓練 (心肺蘇生法・AED講習等) ○防災資機材取扱訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設訓練 ○避難所運営訓練 (給食・給水、情報の収集・共有・伝達、物資配給対応等)

※訓練は、区や消防署、消防団、各種団体や地元企業等と連携したものとすると、より実効性が高まります。

検証

防災訓練の結果について、区職員等を交えて検証を行い、課題を把握して活動を改善します。



実践と検証を通じて、計画の実効性を確保します。
必要に応じて、計画の見直し、追加等を行います。

見直した場合は、町会を通じて区に報告するとともに、説明会やチラシ等により地区住民等の皆さんに報告します。

2 地区特性

(1) 地区の成り立ちと現況

① 地形

まわりよりもわずかに高い自然堤防が形成されている部分が多いですが、荒川と隅田川の過去幾度かの氾濫によってつくられた盛土地・埋立地（荒川氾濫低地）も分布しています。

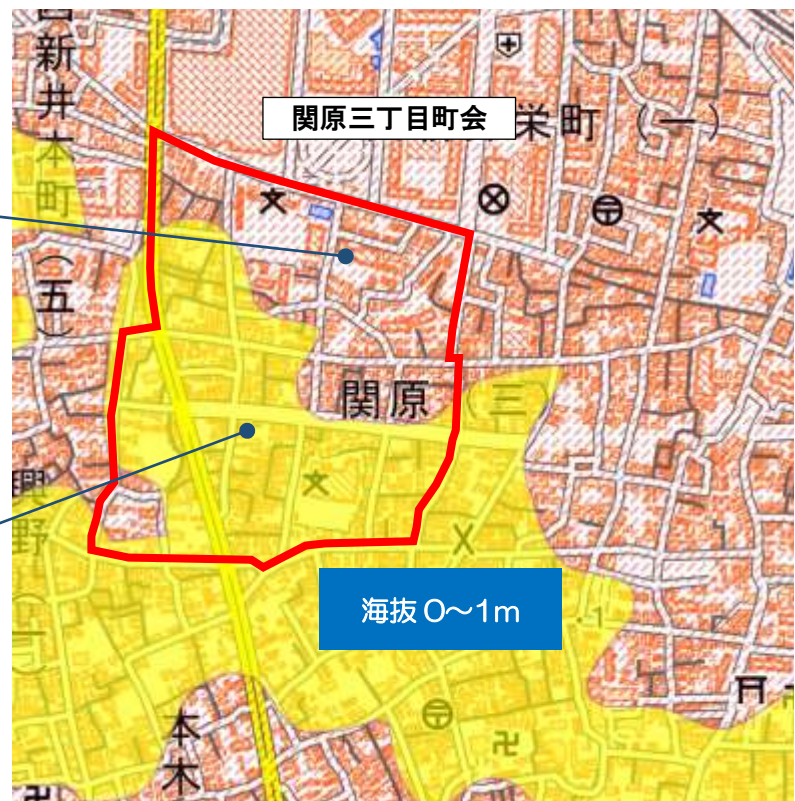
盛土地・埋立地は、軟弱な粘土やシルト*が厚く分布しているため、地震時には揺れやすいとされています。

※シルト：砂より小さく、粘土より粗い破屑物（岩石が壊れてできた破片・粒子）をシルトと言います。

■土地条件図

盛土地・埋立地
（低地に土を盛って造成した平坦地や、水部を埋めた平坦地）

自然堤防
（洪水時に運ばれた砂等が、流路沿いに堆積してできた微高地）



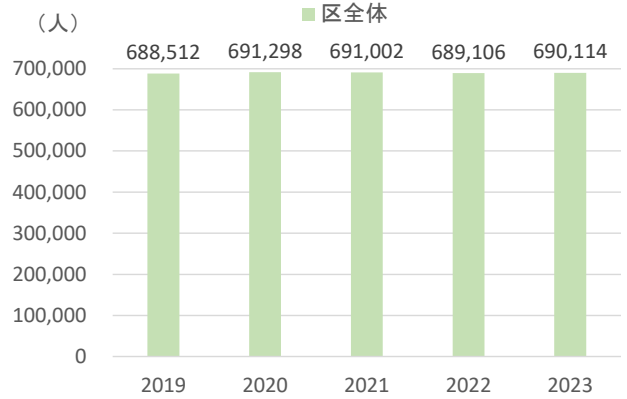
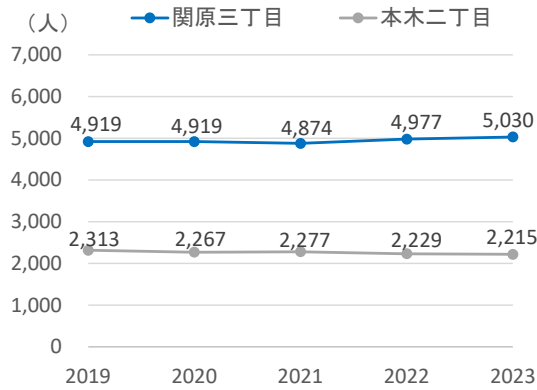
出典：国土地理院「数値地図 25000
（土地条件）」

② 人口・世帯数

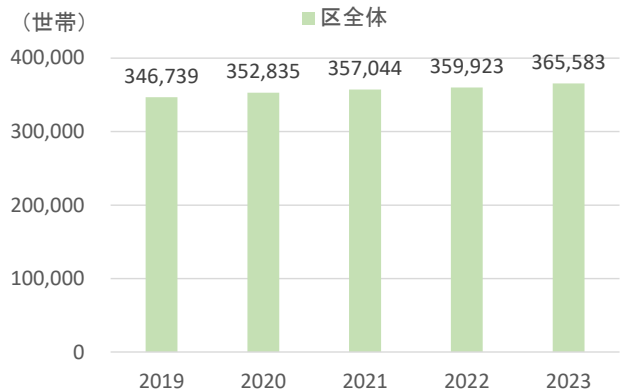
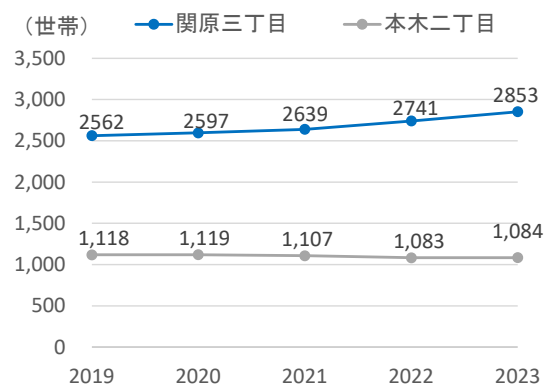
人口・世帯数は、関原三丁目が人口 5,030 人、2,853 世帯、本木二丁目が人口 2,215 人、1,084 世帯となっています。（住民基本台帳、令和 5 年 1 月 1 日現在）

最近5年間の推移を見ると、人口は横ばい傾向となっています。

<人口>



<世帯数>

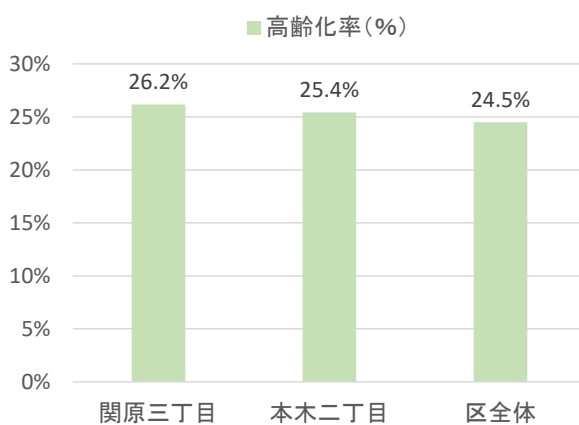


出典：住民基本台帳

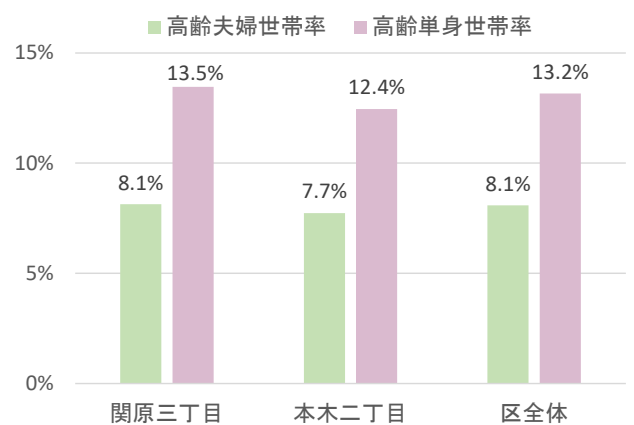
③ 高齢化（65歳以上の人口）の状況

高齢化率（令和 2 年）は、関原三丁目は 26.2%、本木二丁目は 25.4%であり、区全体の値より高い水準にあります。また、高齢単身世帯の割合は関原三丁目で 13.5%と区全体よりやや高い状況にあります。

<高齢化率>



<高齢者世帯の状況>



出典：令和 2 年国勢調査

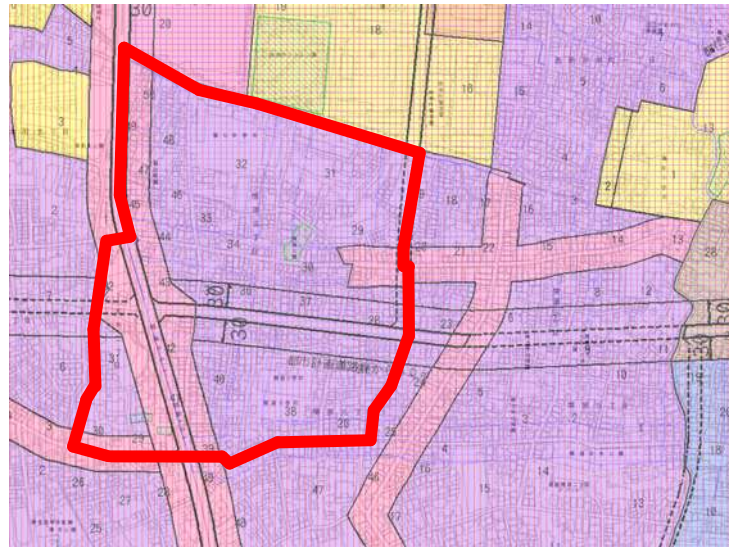
④ 用途地域都市基盤

ほとんどが準工業地域となっており、一部が近隣商業地域に指定されています。

<凡例>

用途地域	
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域(特別工業地区)
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域

区域区分・地域地区等	
	新防火指定
	日影規制



- 近隣商業地域 : まわりの住民が日用品の買物などをするための地域。住宅や店舗のほか小規模の工場も建てられる。
- 準工業地域 : 軽工業の工場等、環境悪化の恐れのない工場の利便を図る地域。住宅や商店も建てることができる。ただし、危険性・環境悪化のおそれ大きい花火工場や石油コンビナートなどは建設できない。

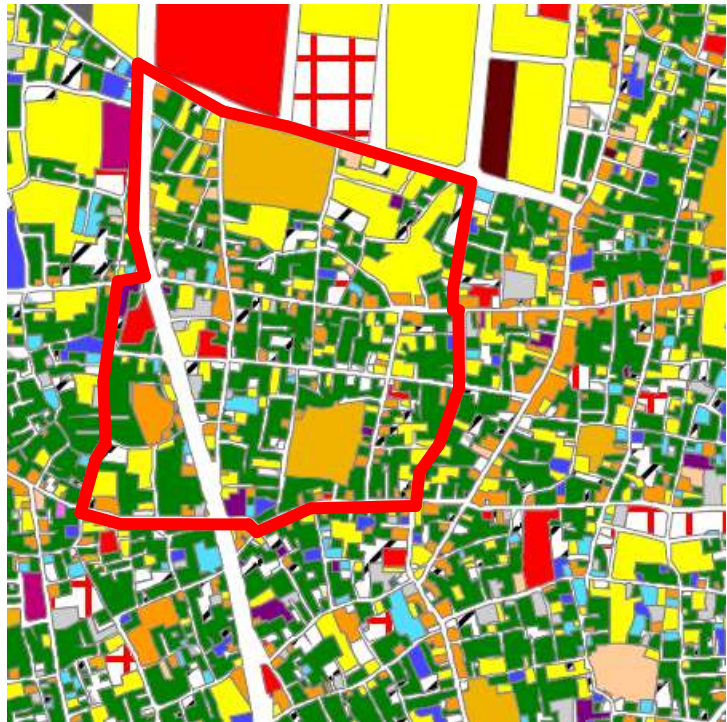
出典:「用途地域等指定図」

⑤ 用途別建物現況

建物用途は、大部分が独立住宅となっていますが、集合住宅や住商併用建物も散見されます。

<凡例>

	官公庁施設
	教育文化施設
	厚生医療施設
	供給処理施設
	事務所建築物
	専用商業施設
	住商併用建物
	宿泊・遊興施設
	スポーツ・興行施設
	独立住宅
	集合住宅
	専用工場
	住居併用工場
	倉庫運輸関係施設
	農林漁業施設
	屋外利用地等
	その他
	公園・運動場等
	未利用地等
	道路
	鉄道・港湾等
	田
	畑
	樹園地
	水面・河川・水路
	原野
	森林



出典:「平成 28 年土地利用現況調査」

⑥ 構造別建物現況

ほとんどの建物が防火造、耐火造、準耐火造になっていますが、木造建物も点在しています。

<凡例>

■ 耐火造

主要な構造部分（柱・梁・壁・屋根等）が鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、耐火被覆した鉄骨造、れんが造、石造等でできているもの

■ 準耐火造

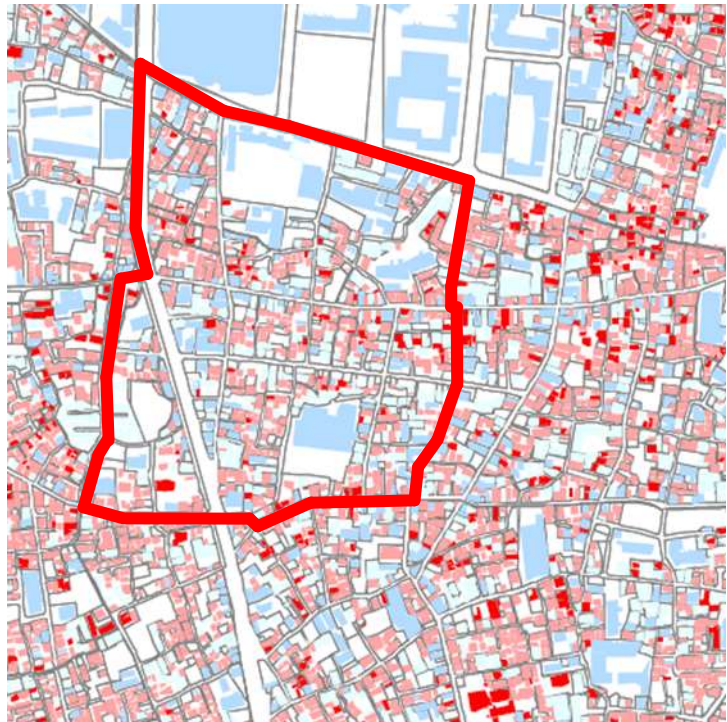
外壁が耐火造で屋根がコンクリート等の不燃材料でできている、または柱及び梁が不燃材料で外壁及び屋根等が防火造でできているもの、または木造以外で耐火造に属さないもの

■ 防火造

柱及び梁が木造で屋根及び外壁がモルタル、漆喰等の準不燃材料でできているもの

■ 木造

主要な構造部分が木造で上記のいずれの区分にも属さない防火性能の低いもの



出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑦ 階数別建物現況

建物は、大部分が 2 階建てですが、防火造の建物では 3 階建ても多くなっています。

<凡例>

■ 1 階

■ 2 階

■ 3 階

■ 中層階（4～7 階）

■ 高層階（8 階以上）



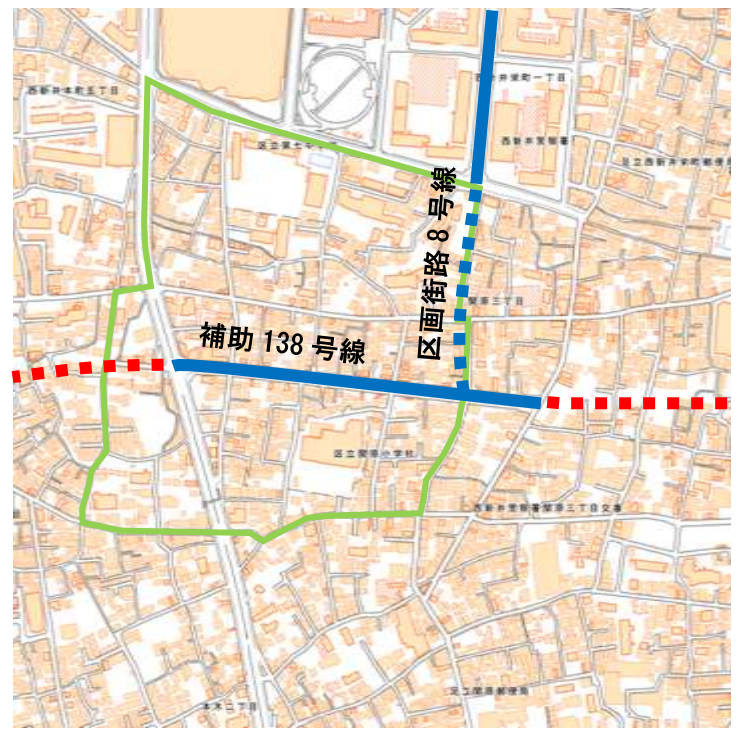
出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑧ 都市計画道路の整備状況

都市計画道路は、補助 138 号が町会の中央部を東西に計画されており、整備済みまたは事業中です。また、区画街路 8 号線が町会の東側に計画されています。

<凡例>

- 整備済
- 事業中
- 計画



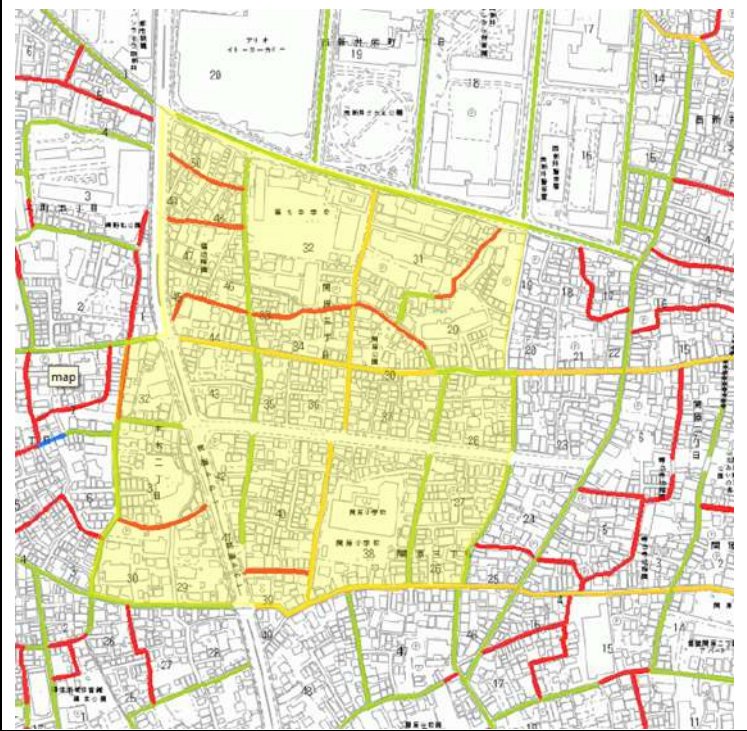
出典：「足立区都市計画図」
(令和 4 年 6 月現在)
下地図は国土地理院地図を使用

⑨ 細街路の状況

地区内では、4mに拡幅すべき細街路が多く残っています。

<凡例>

色	細街路の種類
—	幅員 4m 以上ある路線
—	幅員 4m に拡幅すべき路線
—	幅員 4m で築造すべき路線
—	幅員 6m に拡幅すべき路線



出典：「細街路路線図」(あだち地図情報提供サービス)

(2) 地震の被害想定

① 首都直下地震の被害想定概要

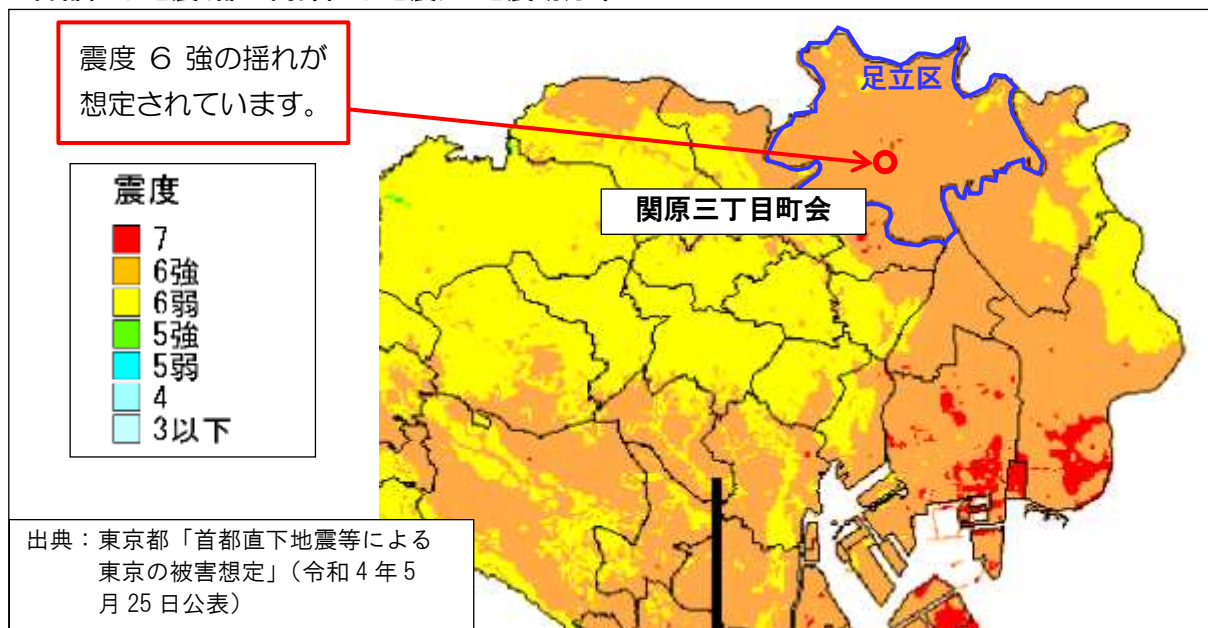
南関東地域における首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率は、今後 30 年以内に 70%といわれています。

■首都直下地震(都心南部直下地震)における足立区の被害想定 (M7.3、冬の夕方、風速 8m/秒)

被害区分	被害の規模	参考
死者	795 人	区の夜間人口の 0.11%
負傷者	8,507 人	” 1.2%
建物全壊	11,952 棟	区的全建物棟数の 8.2%
建物焼失	13,546 棟	” 9.3%
避難者	286,932 人	区の夜間人口の 41.3%
帰宅困難者	44,303 人	区の昼間人口の 7.3%

出典：東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」（令和 4 年 5 月 25 日公表）

■首都直下地震(都心南部直下地震)の地震動分布



6強

【震度 6 強】

- はわないと動くことができない飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたりすることがある。

耐震性が高い

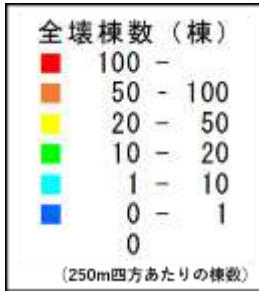
耐震性が低い

出典：気象庁HP
「震度の階級」

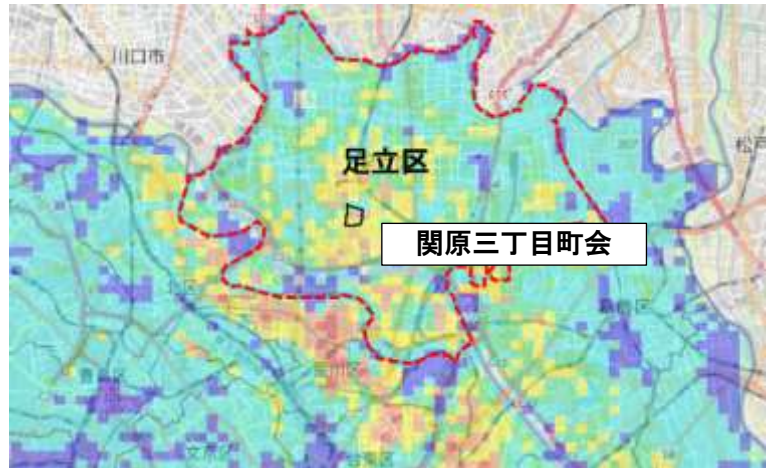
■建物全壊棟数

多いところで50~100棟となっています。

<凡例>



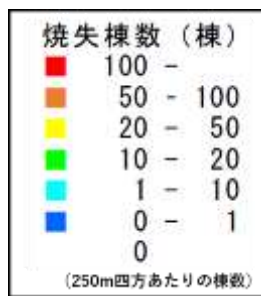
出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）



■建物焼失棟数

100棟以上と想定されています。

<凡例>



出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）



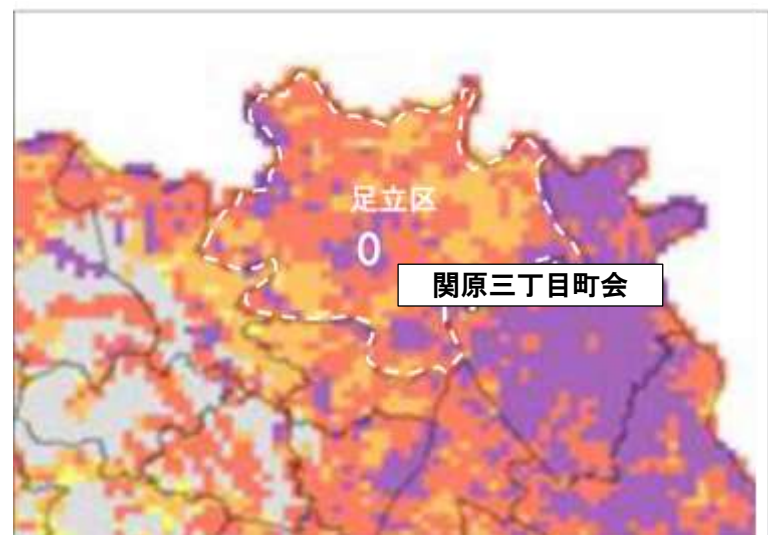
■液状化危険度

危険度が高い地域となっています。

<凡例>



出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）

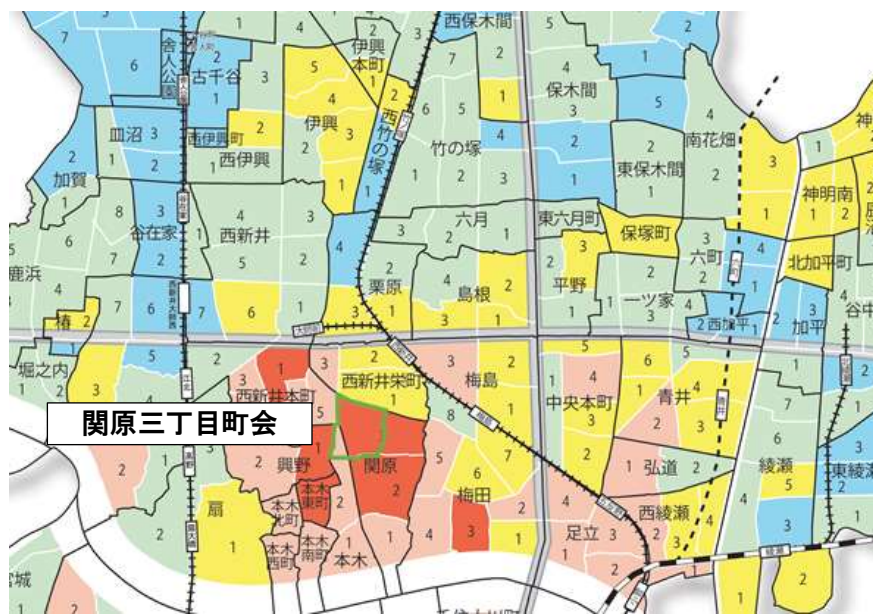
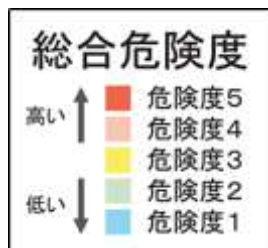


② 地域危険度^{※1}

「足立区防災まちづくり基本計画（改定版）令和4年10月発行」によると、この地域は建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度を考慮した総合危険度^{※2}について危険度が5となっています。（都内5,192町丁目の中で総合危険度が、関原三丁目は59位）

<凡例>

危険度ランク



出典：足立区防災まちづくり基本計画（改定版）令和4年10月発行

※1 地域危険度は、都内の町丁目の地震に対する危険性を比較するため、特定の地震を想定するのではなく、全ての町丁目直下の地盤で同じ強さの揺れが生じた場合の危険性を測定しています。

※2 総合危険度とは、区民の皆さんのまちの地震の危険性を分かりやすく示すために、地震の揺れによる建物倒壊や火災の危険性を1つの指標にまとめたものです。

(3) 水害の被害想定

当町会において、河川氾濫による水害が想定される河川として、荒川、利根川、芝川・新芝川があります。

① 荒川が氾濫した場合

■ 最大浸水深

全域で3m以上5m未満の浸水が想定されています。
早期立ち退き避難が必要な区域です。



■ 浸水継続時間

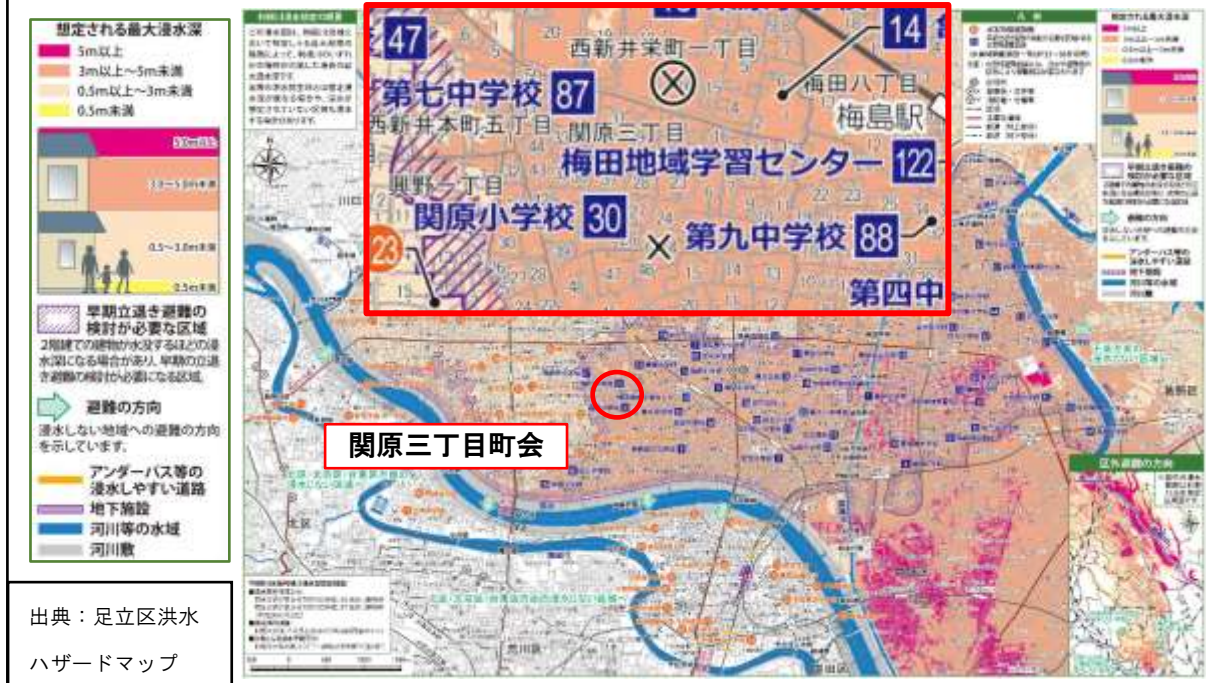
1日以上3日未満浸水が継続すると想定されています。



② 利根川が氾濫した場合

■最大浸水深

全域で3m以上5m未満の浸水が想定されています。
早期立ち退き避難が必要な区域です。



■浸水継続時間

3日以上1週間未満浸水が継続すると想定されています。



③ 芝川・新芝川が氾濫した場合

■最大浸水深

全域で0.5m以上3m未満の浸水が想定されています。



■浸水継続時間

1日以上3日未満浸水が継続すると想定されています。



3 地震発生時の対応シナリオ

(1) 地震発生時の対応シナリオ

地震が発生してから、まず自分の身を守り、その後状況に応じて一時集合場所へ避難、さらに避難場所へ避難するなどの対応シナリオとともに、その際の行動の目安をP16、17に整理しています。

(2) 地区防災マップ

防災に関する地域の資源等を「地区防災マップ」としてP18、19に整理しています。

地震発生時の対応シナリオ



一人ひとりが
任されるよう
準備しておく
ことが重要

まず、自分の身を守る

各自まわりの状況を確認しま
しょう



【一時集合場所】

第七中学校



一時集合場所は、町会・自治会単位で一時的に集合して様子を見る場所です。

- 一時集合場所には次の役割があります。
- 1) 二段階避難において
 - ① 情報伝達や各種連絡の場
 - ② 近隣相互の助け合いや安否確認
 - ③ 警察・消防等の指示のもとで避難場所へ避難
 - 2) 延焼火災の危険がない場合において
 - ① 地域内における初期消火や救出救護活動などの拠点

危険が少ないと判断

火災の危険があると判断

火災の危険があり、一時集合場所に行けない

一時集合場所に集まる

地域での助け合い



火災の危険がなく、一時集合場所が安全

火災の危険があり、一時集合場所が危ない

一時集合場所で待機

避難場所に避難

火災の危険がなくなる

火災の危険がなくなる

家に被害があるか確認

被害がない

被害があり生活できない

家に戻る・在宅避難

第一次避難所に避難

【避難場所】

西新井駅西口地区一帯

避難場所は、大地震時に発生する延焼火災やその他の危険から、身の安全を守るために必要な広さなどがある大規模な公園・広場等が指定されています。



【第一次避難所】

関原小学校 第七中学校



第一次避難所は、自宅に居住できなくなった被災者が一時的に生活する場所です。

りが責
動がと
に、日
備や訓
くこと
す。

火災の発生に、
細心の注意を
はらいましょう

当地区は、家屋が密集し、一度火災が発生すると、町内一帯に延焼する危険性が高い地域です。火災には特に注意しましょう。

火が小さいうちに消火器やバケツ、毛布などで消火

‘震度5強’以上で分電盤ブレーカーを強制遮断する「感震ブレーカー」を設置しましょう。足立区では設置助成を行っています。

東京ガスでは、震度5以上の場合にガスメータが自動的にガスを遮断しますが、元栓は閉めるようにしてください。

ブレーカーを落とす

ガスの元栓を閉める

日頃から、一時
集合場所に至る
複数の避難経路
を確認しておく

当地区は、家屋が密集するとともに、狭い道路が多くなっています。ブロック塀や建物倒壊によって、通れなくなる場合があるため、複数の避難経路を確認し、平常時に歩いてみておくことが重要です。



落ち着いて行動
しましょう

火災は一気に燃え広がることはありません。落ち着いて行動するようにしましょう。避難時の服装などに注意しましょう。

- ・ヘルメット、防災すきん、帽子
- ・動きやすい服装、軍手
- ・履きなれた底の厚い靴
- ・夜間の懐中電灯



避難する時に、
隣近所に声を
かけましょう

避難するときには、近所の高齢者、妊婦の方、小さな子どもがいるお宅などに、ひと声かけましょう。ひと声かけた情報（返事がなかった、不在だった、下敷きになった人がいる可能性など）は大切な情報になります。一時集合場所にみんなで情報を持ち寄りましょう。



みんなで助け
合って救出活動
を行います。

ケガや危険を伴うので、救出活動は複数で行うようにします。柱や梁に挟まれた人を発見したら、皆で声をかけて助けます。意識があるかどうか確認し、励ますことも重要です。また、救出用資機材の保管場所も確認しておきましょう。



【第二次避難所（福祉避難所）】

第一次避難所での生活が難しい要配慮者の方々のため、必要に応じて介護サービスなどが確保される場所です。第二次避難所へは、必要に応じて足立区が移送します。



地区防災マップ [関原三丁目町会]



防火水槽



防火のために地下等に貯水してある水槽(写真左)で、ポンプで吸い上げて消火に利用する。地震時、消火栓の配管が壊れ、使えなくなった際にも有効。
町会にあるC級ポンプ(写真右)を使用し、揚水・放水できる。

消火栓



外観



消火栓蓋を開けた状態

水道本管に直結する方法で、消防車両に消防用水を供給する施設。
町会にあるスタンドパイプを結合し、放水できる。

消火器



小型



大型



ロケット型

設備



町会設置



掲示板

第一次避難所

一時集合場所

第七中学校

中学生用消火隊

第一次避難所

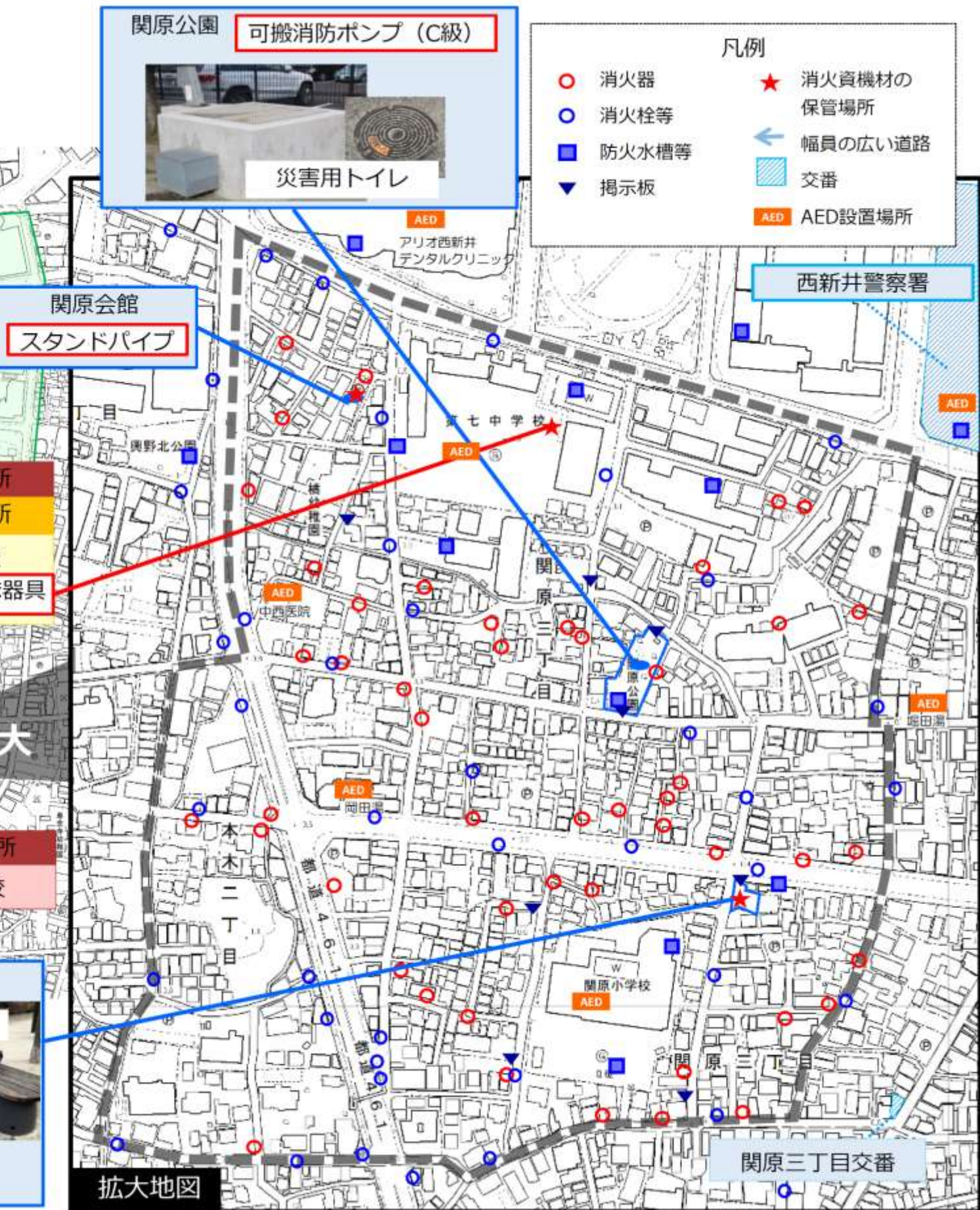
関原小学校

関三児童遊園

かまどベンチ



災害用トイレ格納庫



※この地図は、東京都縮尺1/2,500地形図(令和3年度DVD版)を使用したものである。

(3) 話し合いによる検討

① 防災まち歩き

地震が起きた時のことを想定しながら、まちの中の危険なところや、災害時に役立つ広場や備蓄倉庫などの資源、要注意箇所等を探す「防災まち歩き」を実施し、その結果をマップにまとめました。(矢印は実際に歩いたルートを示します。)



② 地区の課題と対応策

本計画の作成にあたっては、町会役員会での議論を行った結果、次のような地区の課題や意見が出され、その対応策を本計画に盛り込むこととしました。

■地区の課題と対応策（令和元年度 地区防災計画策定ワークショップ）

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none"> • 第七中学校は、2 町会において、第一次避難所と一時集合場所の両方の指定を受けている。しかし、東日本大震災の記憶から、町会会員に加え、帰宅困難者までも一斉に避難してくるとなると、許容を超え、避難所としての準備ができず、機能を果たせずに混乱が起こる。区とも相談し、西新井さかえ公園やアリオに一時避難させる案が挙がっている。 • 一時集合場所の第七中学校は、町会の南側に住んでいる方には遠い。関原公園や関原小学校に一旦集合して、それから第七中学校に避難するという話は挙がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 避難所に人が殺到した際に起こる混乱を想定し、回避するための対策を検討する。 • 一時集合場所について、町会で検討する。町会内で集まれそうな場所（関原公園、関三児童遊園等）については、一時集合場所として区に申請することを考える。 • 一時集合場所の他に、近隣住民が一時的に集合できる場所を検討し、町会内で共有する。
<ul style="list-style-type: none"> • 木造の建物や道幅 4m未満の細い道がとても多い。家屋の倒壊や火災などが早い段階で起こってしまったら、家の外にでられるのか、また近くの広い道に出られるかも危うい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 定期的なまち歩きで危険要素について点検し、道路が通れなくなる場合に備え、避難所までの安全な避難経路を複数考えて実際に歩き、対策を考える。
<ul style="list-style-type: none"> • 訓練は東町会と合同で役員を中心に行い、第七中学校の資機材やトイレの場所の確認をした。 • スタンドパイプは、一度消防署の本木出張所で訓練の際に使用したが、一度触っただけでは使いこなせないと感じた。ただ、現状では町会で定期的な訓練行えるような体制はない。 • 消防隊では、防火水槽を使って消火をする訓練はしているが、定期的ではない。また、大規模火災に対応できるほど防火水槽や消火栓の数がない。消火器具などの管理は消火隊が行っており、災害の際は関原公園にポンプ車が来るようになっている。 • 町会内の消火器は、区の支給品の他に、信用金庫より寄付されているものもあるが、古く点検されているか不明なため、近々撤去もしくは入れ替えが予定されている。これらは町の人全員が把握はしていないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日頃から防災意識を持つようにするため、役員だけでなく、町会全体が気軽に参加できる小さな規模感で、定期的に行える実践的な訓練方法を検討する。 • 消火器やスタンドパイプの増設、配置場所について検討し、区に申請する。 • 町会設置の消火器の管理方法について検討する。 • 現状で把握している防災資源の位置を防災マップに記載する。（P18,19 に記載）

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none"> • 地震の際に、津波や川の決壊があった場合の水害について、動ける人は高台にいけるが、一人で遠くまで動けない高齢者等はどうすればよいか。そのために、この町会で一番安全で高いところやそこまでに行く避難路を示すような、一目でわかる地図があると良い。 • 町会内の意識啓発ために、この地区の海拔や詳細な水害の想定情報を追加する等して、現実味のある内容を今後増やしてほしい。 • 台風の際に感じたが、現状役員以外が訓練をする機会がないため、避難をしてくる側の住民の防災意識が低い。避難訓練の必要性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者等の避難の支援、共助の方法について検討する。 • 水害に備え、平常時に本計画の概要版を活用して、町会内で高く、安全な建物を確認し、避難経路を検討する。 • P4の「土地条件図」内に地区の海拔が0～1mである旨の表示を追加した。 • 住民の意識啓発のため、定期的な防災に関する勉強会、訓練の開催や、チラシ配布などの広報活動を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> • 避難所での各自の役割を明確にしたい。 • 組織を形成したとして、それが災害時にきちんと働かないかもしれない心配がある。 • 町会のメンバーは高齢者が多いので、初動でどれだけ動けるか、動けない人がいた場合どうするのかも考えていきたい。 • 町会に入っていない人の把握はどうすればいいのか、また、一人で住まわれている方の安否はどう確認したらいいのか、そういった情報も開示してもらえないか。 • 町会のどこが空き家なのか把握しておかないと、共助するにもできない。 • 昔ほど向こう三軒両隣という意識はなく、現状では隣近所の連携は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 役員だけではなく、町会の人全員が携われるような町会内の体制、役割分担、情報伝達の方法について検討する。 • 住民一人ひとりが避難の場所、避難の方法などを理解するため、手順、考え方などを計画に盛り込む。 • 地震時の自助・共助の取り組みについて計画に盛り込む。
<ul style="list-style-type: none"> • アリオで物資を配布するという話があるようだが、非常用物資の取り合いなどの混乱がおこらないだろうか、町会の物資は確保できるのか。そういったことがあると、避難するののままならなくなってくる。 • 町内放送は家にいるときに聞こえない。最近では二重窓の家が増えている。外に出ても、高い建物が壁になって聞こえないことがよくある。各家庭に防災スピーカーの配置や、農業無線のようなしくみの検討はされないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 町会内の避難所の備蓄状況を確認し、区と相談して備蓄の増設や保管場所を確保できないか等の検討を行う。 • 平常時から、自助のための備蓄品のリスト（P34）を確認し、災害に備える。 • 【区回答】現時点で個別配布の予定はない • 防災無線の放送内容を電話で確認できる電話応答サービスの電話番号（050-5527-2305）を計画に記載し、町会内で周知を図る。現状の回線数は少なく、区が回線を増設していく予定である。 • A-メール（P44）やあだち安心電話（P45）を活用し、災害情報をメールで受け取れるよう設定を検討する。

■地区の課題と対応策（令和5年度 地区防災計画見直しワークショップ）

課題（意見含む）	対応策
<p>○一時集合場所・避難場所・第一次避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定されていないが、この地区はアリオがある。また、地震と水害で避難様式は異なる。水害だと高い所が良いので学校などが最適かと思う。マンションも候補になるが、外部の方がマンションに避難させて頂くのは難しい。 地震の場合、火災は必ず付き物になる。夜中でも火を使用している場所があると思うので、様々な時間帯で火災の危険性がある。 一時集合場所に集まった場合に、そこで誘導する人を決めておかないといけない。 	<p>【区】荒川が氾濫した場合、被害想定が4mとなり、第七中学校の2階の床まで水が浸かる。水害の場合には分散避難を推奨する。</p>
<p>○防災訓練・資機材について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で人の集まりに対して行政の指示もあったことにより、ワークショップ時に出た避難の対応に関して基本的に進展はない。 防災訓練や避難所の開設訓練は第七中学校で行わないといけない。町会単位で訓練等をやらないといけないということになっており、日程調整等を町会の定例会で進めて実施する。また、関原三丁目東町会と合同に行う。現状、コロナ禍の影響が前よりは少なくなり、施設での行事が多くあるため、場所を取るスケジュールを調整する。 消火器を設置している所は点検済みなので問題はない。なお、これまで、実際に消火器を使用した例はあまりない。 消火器での消火活動は初期消火のみだと認識している。自分たちが出来ることには限界がある。役員に関しても年齢的な高齢化がある。 町会の人を参加させて訓練を行うのにも、規模が大きくなる。そのため、定期的に何回も実施することは難しい。 全体的に訓練を実施したのはずっと前である。実施しないといけないとは認識している。 台風は予知できて段階的に避難および対応していくことは可能であるが、地震は夜中に起こるなど、いつ発生するか分からない。そうになると、誘導したりすることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時に使用できるように訓練を行う。

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none"> 4年前とは環境および状況が異なるため、現状を考慮して対応策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練方法を今後検討していく。また、全てをコロナ禍前に戻すわけではなく、現状に基づいて対応を検討する。
<p>○防災マップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険性のある場所を危険だと認識していない可能性はある。元々、道路が狭い。 危険箇所の全体を把握していない。 <p>・関原小学校は建築され、地図上での形状が建築前後で異なる。</p>	<p>【区】まち歩きの内容を反映した防災マップを活用して、危険箇所を確認して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険箇所を考慮し、避難経路を複数考えて実際に歩いてみる。 防災マップ（P18,19 及び概要版）を更新した。
<p>○水害について</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害に関してだが、本当に 4m 以上の水が来るのか。 現地で雨が降ることだけでなく、山等の上流側で雨が降れば、増水につながる可能性がある。 コミュニティ・タイムライン（台風時の時系列的な行動指針）に関しては比較的対応し易いと思う。 	<p>【区】荒川が氾濫した場合の被害想定では来る可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害時の避難の手順、避難場所（分散避難）について検討する。
<p>○体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例会は毎月あり、その時に防災関連の情報を役員に伝達している。避難所は第七中学校と関原小学校ということで、町会の方も避難場所は大体分かっていると思っている。 4年前とはメンバーが異なる。実際に動ける人が少なくなっている。今後検討していく 町会に加入している世帯は、5割程度で約800世帯くらいかと思う。 マンションやアパートが多くなるほど、世帯数の町会加入率は低くなる。 新しい建物はマンションかアパートである。非常に大きいマンションであれば、そこで自治会を形成することが可能である。しかし、普通の規模のマンションでは町会に入らない。 町会の入会条件に個人的なメリットを求められる風潮になって来ている。 小さい子供は地域と関連することが多くその 	<p>【区】地区防災計画の概要版を町会の方に確認してもらうのが良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「共助」として何ができるか、現状の体制でできることから検討していく。

課題（意見含む）	対応策
<p>親も地域に関心を寄せるが、子供が成長すると親は地域に関心を寄せなくなる傾向があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会の役員は、やってくれる人がいないため、替われないというのが現状である。仕事柄、時間が取れない人が多いと思う。時間的に厳しく出席していないが定例会に出たいという意味のある人はいる。また、顔見知りにならないと、町会の訓練等に出席してくれない。 	
<p>○要支援者の避難について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震時での高齢者避難の支援について、実際に町会の方に聞いたところ、一人身での要支援者はあまりいないと回答を得ている。今後、町会で要支援者の調査を行い、リストアップする予定である。ただし、個人情報の取り扱いに注意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者のリストの作成や、支援の方法について検討する。
<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲示板に関してだが、印刷物が掲示用となっているが両面印刷されているものがある。 コロナ禍になってから、手渡しされるのが嫌なため、回覧は必要がないという方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報伝達・連絡方法について検討する。

4 水害時の対応シナリオ

(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要

台風等が発生し、水害が予想される場合の避難先の判断方法や避難所でのルールをP28、29に整理しています。

(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ

水害が予想される台風等が発生してから洪水に至るまでに発令される避難情報をP30、31に整理しています。

(3) コミュニティタイムライン

関原三丁目町会では、台風の発生から災害の発生までを、ステージ1から5までの5段階に分け「いつ」「誰が」「何を」行うのか、時系列に沿って決めた「荒川氾濫に備えた関原三丁目町会コミュニティタイムライン」を作成しました（P32、33）。

水害が予想される場合の防災行動の概要

三密
対策

分散避難

避難所には多くの方が来ます。三密を避けるため、自宅の浸水リスクを把握し、避難所以外へ「分散避難」ができるか事前に検討をお願いします。

STEP 1 足立区洪水ハザードマップで、自宅の浸水リスクを確認



河川（荒川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川、芝川・新芝川）ごとに水害を想定。避難方法を考えるために、まずは自宅や周辺の浸水する危険性を把握しましょう。お持ちでない方には企画調整課、区民事務所で配布しています。くわしくはお問い合わせください。 **問い合わせ先** 企画調整課 企画調整担当 ☎3880-5349

避難方法の判断ポイント！

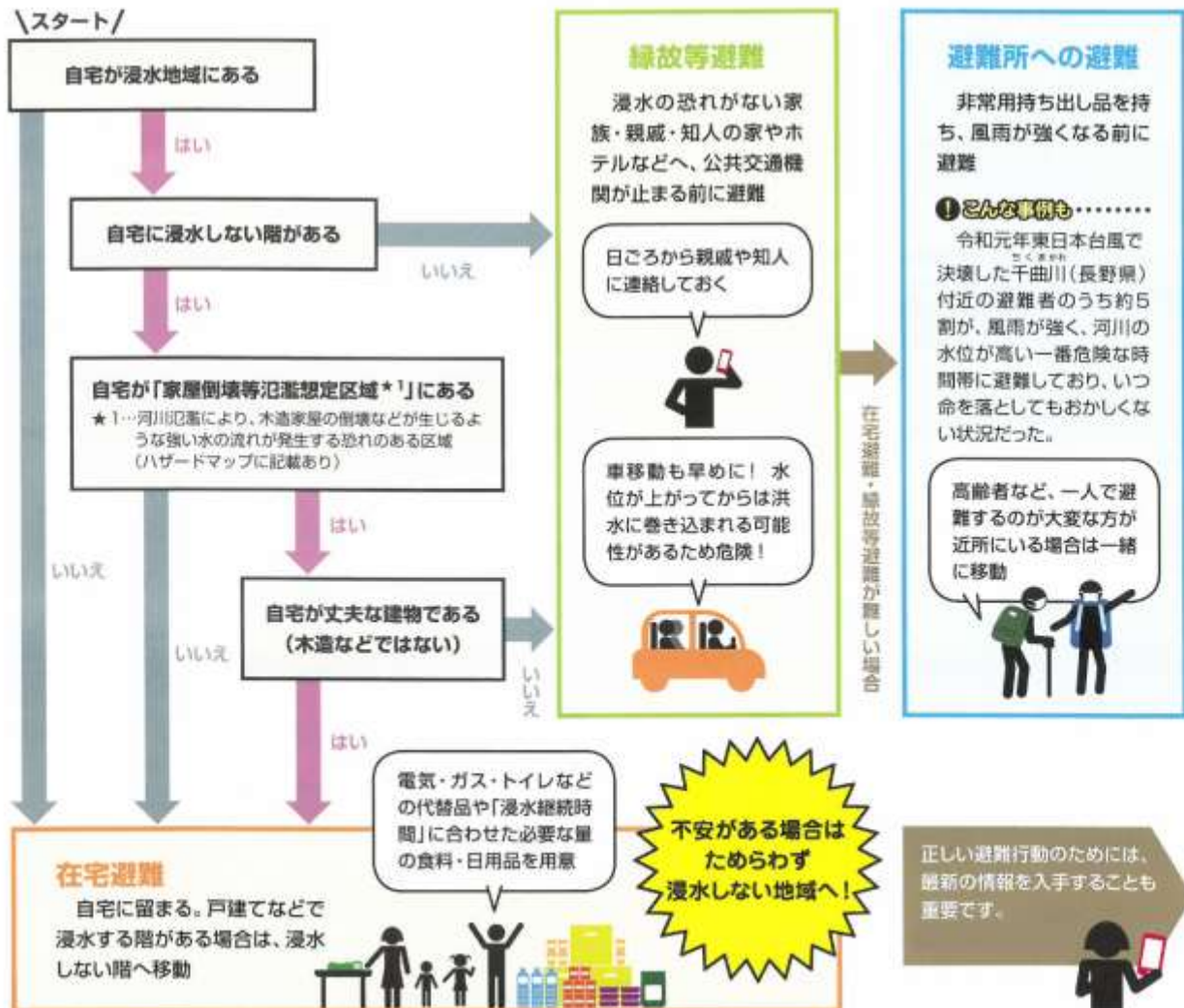
- ✓ 浸水深
- ✓ 浸水継続時間

河川ごとに確認して、ハザードマップの「避難行動メモ」に記入しておこう！

例えば、荒川氾濫時、千住地域の最大浸水深は、5m以上（3・4階まで浸水）の所もあれば、3～5m（2階まで浸水）の所も。自宅の場所や住んでいる階などで、避難方法を考えることが重要です。

STEP 2 自宅の浸水リスクを踏まえ、避難方法を検討

自宅の「浸水深」「浸水継続時間」を把握したら、下記のフローチャートを参考に避難方法を考えましょう。



開設・受け付け

災害対策本部*²が避難所開設を決定し、区職員を配備

荒川氾濫が予想される場合、避難所（区立小・中学校など）を一斉開設します。そのほかの河川の場合は、気象情報などをもとに判断します。

★2…台風・豪雨などの発生により、区内に被害が生じる恐れがある場合に区が設置



受け付け*³で避難者カードに住所・氏名などを記入

そのほか、下記のことを行います。

- ・検温の実施 **感染症対策**
 - ・運営ボランティアを募集 など
- ★3…家族で別々に避難して受け付けをした場合は同じ居室にならないことがあります。



ペット動物との同行避難

受け付け時にペット登録カードを記入し、ペット動物用居室へ。飼い主とは原則居室が異なります。

ケージ、リード、エサ、シートなどは必ず持参してください。



避難中

避難所の居室は浸水しない最上階から利用

浸水する階にある体育館は、受け付けなどで一時的に使用する場合を除き、使用しません。



37.5℃以上の方は居室を分ける **感染症対策**

受け付け時に検温し、37.5℃以上の熱がある方の居室分けを行います。



避難当日の食料・水の提供は行いません

区の備蓄品は河川が氾濫し、避難の長期化が見込まれる場合に使用します。2食分の食料（火やお湯を使わないもの*⁴）や水、タオルなどは必ずご持参ください。

★4…乳幼児用のミルクなどを除く



物資受け取りは避難者自身で

毛布などの物資は、避難者が受け取りに来てください。



最新の情報を確認

校内放送や掲示板などで災害対策本部からの情報を周知します。



閉鎖

雨が止んでも危険は去らない

令和元年東日本台風では、台風通過後に河川の水位が上昇。避難情報の解除や避難所の閉鎖については、災害対策本部が判断します。それまでは、避難所に留まってください。

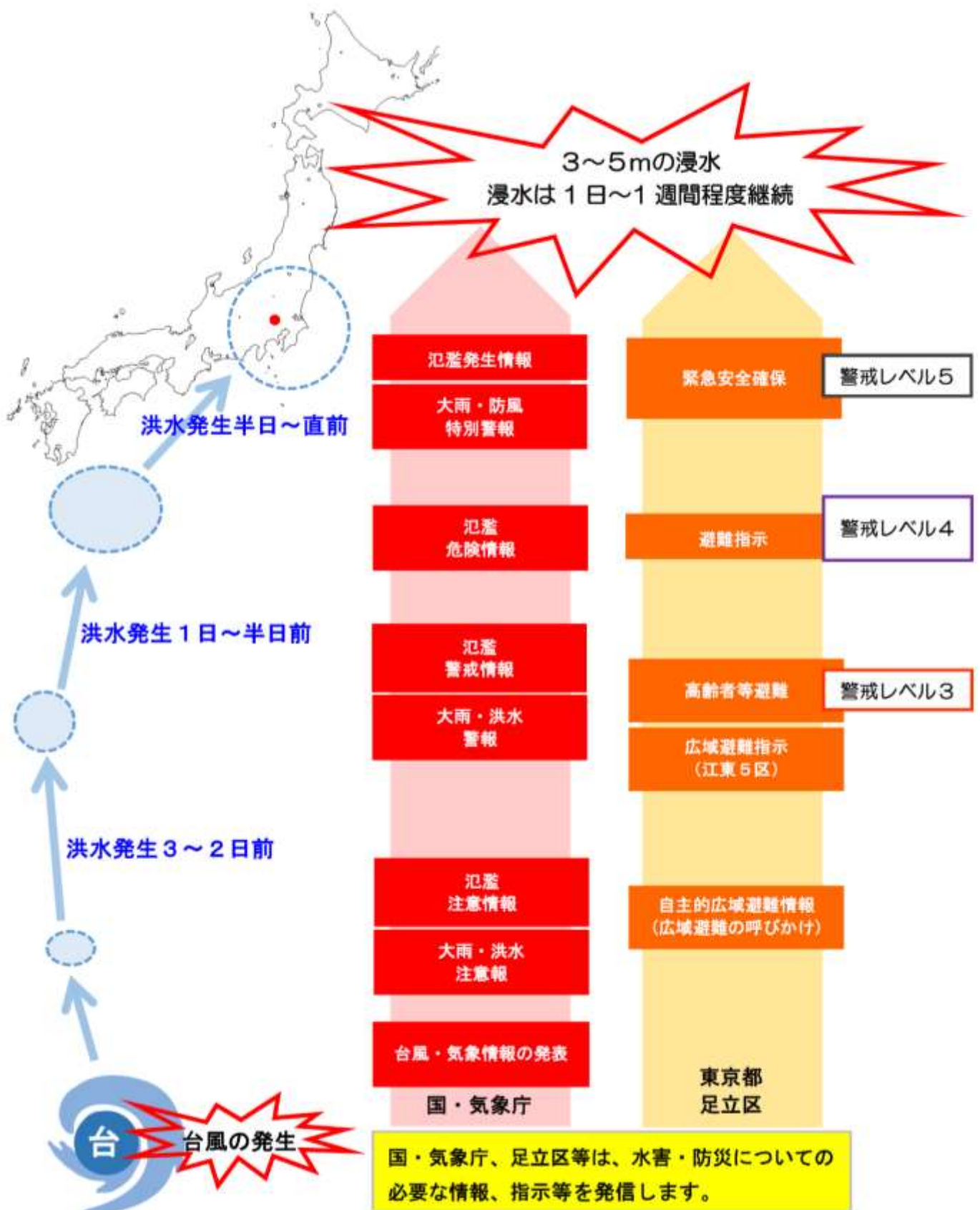


身の回りを清掃し、ごみは各自で持ち帰り

使用した部屋の清掃や毛布などの返却にご協力をお願いします。また、ごみは原則お持ち帰りください。



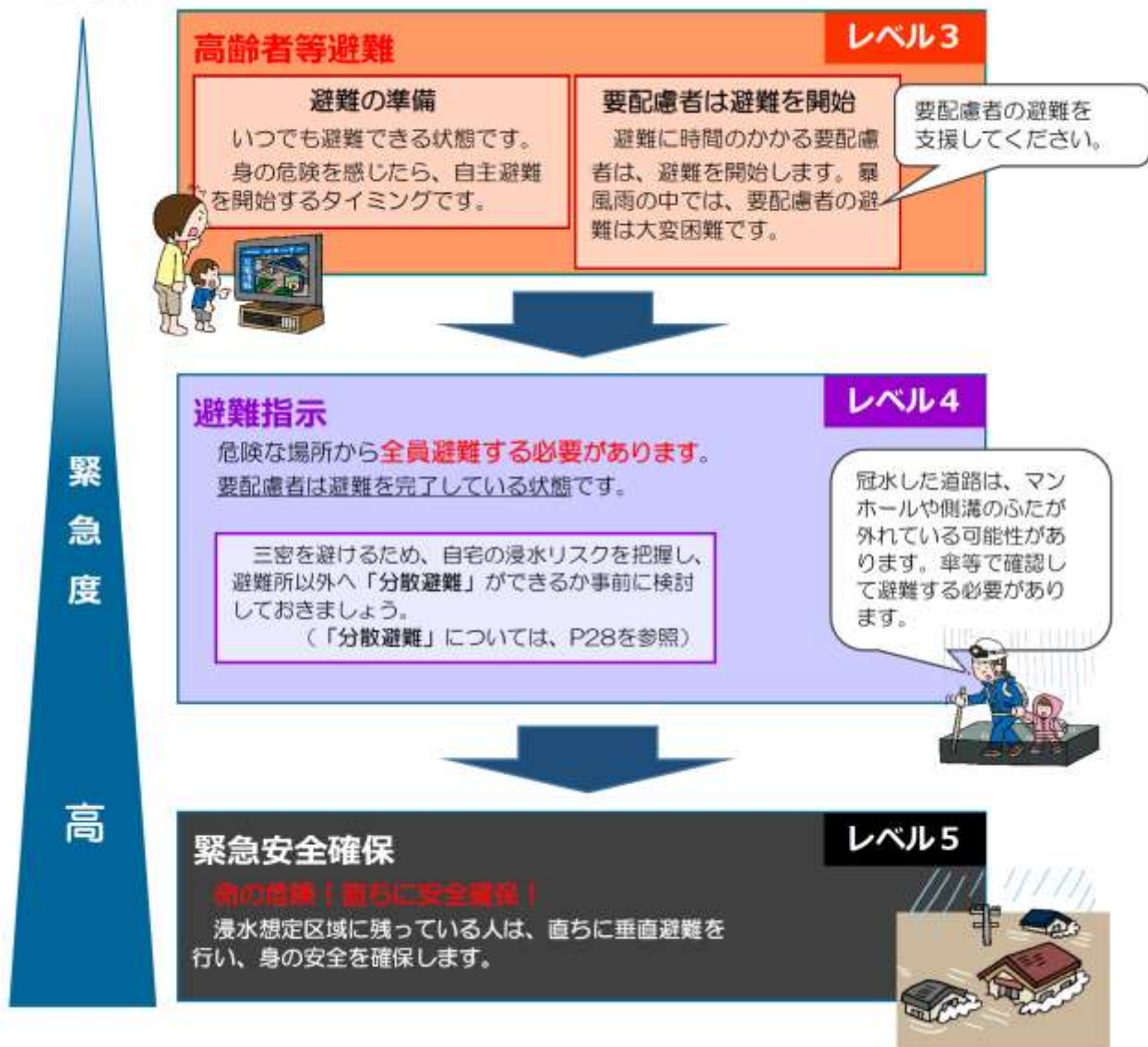
水害が予想される場合の対応シナリオ



■水位変化・危険レベルと足立区の体制



■避難情報について



荒川氾濫に備えた関原三丁目町会コミュニティ・タイムライン 本木・関原

足立区役所では、台風の接近から災害の発生までを、現象や情報の発表を基準に、レベル1から5まで5段階に分け、それぞれの段階で「何を」行うのか、時系列に沿って定めた「足立区役所内タイムライン」を作成しています。この「関原三丁目町会 コミュニティタイムライン」は、足立区庁内タイムラインと連動し、地区で行う対応行動を定めたものです。台風等が接近し、荒川の氾濫による水害の発生が予想される場合の避難行動の目安としてご利用ください。



関原三丁目町会コミュニティタイムライン【本木・関原】

令和4年6月11日時点

タイムライン ステージ	現象・状況	情報 【発信者】	おもな対応			避難する場所
			区役所	町会長	役員・班長	
1 関心を 向ける (4日前)	<ul style="list-style-type: none"> 台風による関東地方への影響の可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ニュース【テレビ等】 気象・台風情報【気象庁】 	<ul style="list-style-type: none"> 区行事等中止の連絡 コロナ禍での避難の注意点を呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の確認(テレビ、ラジオ、携帯・スマホ、パソコン等) 避難方法(分散避難)の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民・要支援者 	-
2 避難に 向けた 準備 (3日前)	<ul style="list-style-type: none"> 台風による関東地方への影響の可能性がある 埼玉県秩父周辺で72時間予想雨量が400mmを超過する予想 	<ul style="list-style-type: none"> ニュース【テレビ等】 気象・台風情報【気象庁】 	<ul style="list-style-type: none"> 役員等と連絡を取合えるよう準備をする 要支援者への声掛けに使う名簿等の保管場所・内容を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 避難の準備 持ち出し品・備蓄品の準備 分散避難先へ連絡【要支援者】 支援者と連絡を取り、避難の準備を行う 地区外に避難する際は、町会から事前に配布したチラシを見て、町会役員へ電話で連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者 	<ul style="list-style-type: none"> 区外や安全な地域の家族・知人宅
3 分散 避難 開始 (2日前)	<ul style="list-style-type: none"> 台風の首都圏への接近 埼玉県秩父周辺で48時間予想雨量が400mmを超過する予想 鉄道等で計画運休の検討が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ニュース【テレビ等】 気象・台風情報【気象庁】 台風説明会、記者会見等の開催【気象庁】 	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の設置 縁故避難開始の呼びかけ 避難所開設時期の決定・開設の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 本木・関原地区で危機感共有会議を開催・参加し、役員等へ内容を共有する 各部長へ電話を使い、区からの情報を伝達する 	<ul style="list-style-type: none"> 危機感共有会議の内容を共有する 各部長か電話・訪問で要支援者へ避難の声掛けを行う(絆の安心ネットワークの名簿を利用) 役員が町会の広報車を使い、早めに分散避難をするよう何度も呼びかけを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 区外や安全な地域の家族・知人宅
4 高齢者 等避難 開始 (1日前)	<ul style="list-style-type: none"> 大雨・洪水注意報(東京) 足立区が暴風域に入る予想 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨・洪水注意報【気象庁】 高齢者等避難開始の発令【足立区】 	<ul style="list-style-type: none"> 各部長へ電話を使い、区からの情報を伝達する 	<ul style="list-style-type: none"> 役員が町会の広報車を使い、避難をするよう呼びかけを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 【要支援者】 避難の開始、徹底【住民】 避難の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 区外や安全な地域の家族・知人宅 指定避難場所
5 避難の 実施 (-12時 間前)	<ul style="list-style-type: none"> 大雨・洪水警報 暴風警報 避難判断断水水位超過の見込(治水橋) 	<ul style="list-style-type: none"> 避難指示の発令【足立区】 	<ul style="list-style-type: none"> 避難指示の発令 避難所の開設 	<ul style="list-style-type: none"> 支援活動の終了 全員避難の徹底<避難情報解除まで戻らない!!> 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅や知人宅の2階 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅や知人宅の2階

台風の最接近・氾濫の発生



我が家のタイムライン

いつ	何を	具体的な行動内容
	自宅の台風対策	・屋根の点検、雨戸の戸締まり ・
	非常持ち出し品の用意	・3日分の食糧 ・普段使っている薬 ・
	避難の実施	どこに 避難方法
	避難完了の報告	誰に どうやって
緊急連絡先	お名前： 電話番号：	(関係：)



関原三丁目町会のみなさんが行うこと

- ・ **コミュニティタイムラインの赤字で記載した行動・方法は未確定です。**
- ・ **遅くとも台風シーズン(8月～10月頃)までには町会で話し合い、確定させましょう。**
- ・ 各町会で要支援者の人と連絡が取れるように、体制を整えましょう。
- ・ コミュニティタイムラインを参考に、家族でも連絡方法や避難の場所について話し合しましょう。
- ・ 話し合った結果は、左上の表「我が家のタイムライン」に書き込みましょう。
- ・ 実際に避難する場合は、向こう三軒両隣で避難の声掛けをしましょう。



避難する場所の長所と短所

避難する場所	長所	短所
区外の安全な地域の家族や知人宅	十分な安全を確保できる	移動に時間を要する
・関原小学校 ・第七中学校	地区内にあり、移動しやすい避難所である 区の職員がおり、情報を得られやすい	新型コロナウイルス対策で人数に制約がある 人が集まり密になっ てしまう 洪水時には孤立する
地区内の高層建物・家屋	自宅から近い	事前の協定がないと 入れない場合がある 洪水時には孤立する
自宅・知人宅の2階以上	避難中に被災すること がない	洪水時には孤立する ライフラインが使えな い

5 関原三丁目町会における平時の備え

(1) 事前対策リスト

災害時の備えを事前にチェックできるように、自助と共助に分けて事前対策をチェックリストにしました。

■自助のための事前対策リスト

<被害を抑えるために事前にしておくこと(家の中)>

家具の固定・配置など	<input type="checkbox"/> 家具が転倒しないように固定する
	<input type="checkbox"/> 寝室には家具を置かないか、寝床に向かって転倒しないようにする
	<input type="checkbox"/> 家具の扉が揺れて開かないようにする（耐震ラッチなど）
	<input type="checkbox"/> 家具のガラス扉などは飛散防止フィルムを貼る
	<input type="checkbox"/> 玄関などの出入り口までは物を置かずに避難できるようにする
	<input type="checkbox"/> ベランダの避難用の隔壁、避難ハッチ周りに物を置かない
	<input type="checkbox"/> フロアの汲み置き（災害時、生活用水として利用）
共有情報	<input type="checkbox"/> 消火器の設置場所と使い方の熟知
	<input type="checkbox"/> 災害伝言ダイヤルなど家族との連絡方法を確認

<備蓄>

必ず備蓄するもの	<input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日3リットルを最低3日分、できれば7日分を推奨）	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ（便袋）
	<input type="checkbox"/> 食糧（レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子、最低3日分、できれば7日分を推奨）	
避難・救護に役立つもの	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ヘルメット、防災頭巾
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品（絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬等）	<input type="checkbox"/> ホイッスル（閉じ込め時に音を発するため）
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ランタン、マッチ、ライター	<input type="checkbox"/> 防災マップ
	<input type="checkbox"/> 工具類	<input type="checkbox"/> マスク
避難生活で役立つもの	<input type="checkbox"/> リュック（物資の持ち運び用）	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー
	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 除菌シート
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク（水の配給時に必要）	<input type="checkbox"/> 携帯用充電器（ソーラー又は手動）
	<input type="checkbox"/> ラップ（食器にかぶせて使用）	<input type="checkbox"/> ビニールシート（敷物、雨よけ）
	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
	<input type="checkbox"/> ガムテープ	<input type="checkbox"/> 電池
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー、ティッシュ	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、ガスボンベ	<input type="checkbox"/> 新聞紙（防寒、燃料）

<避難など自宅を離れる時に持ち出した方がよい貴重品>

非常用持出し	<input type="checkbox"/> 現金、クレジットカード	<input type="checkbox"/> 預金通帳、キャッシュカード
	<input type="checkbox"/> 携帯電話	<input type="checkbox"/> 免許証、健康保険証、お薬手帳
	<input type="checkbox"/> マイナンバーカード、年金手帳	

避難所では、支給できる物資には限りがあります。特に、乳幼児や障がい者、持病やアレルギーをお持ちの方、ペットを飼われている方など、それぞれに合った備蓄・準備が必要になります。

■共助のための事前対策リスト

地域の共通課題である「避難対策」に絞って、基本的な事項をチェックリストにしました。

避難対策に必要な項目	チェックリスト	備考
一時集合場所へ向かう途中の初期消火	<input type="checkbox"/> 町内で消火器やバケツの備えはあるか <input type="checkbox"/> 備えた場所がわかるか	<ul style="list-style-type: none"> 出火したばかりの火災があったとき 隣近所で消火器での消火、バケツリレー
一時集合場所へ集合	<input type="checkbox"/> 一時集合場所とそこに集まるエリアを決めておく <input type="checkbox"/> 一時集合場所が使えない場合の代替場所はどこか	<ul style="list-style-type: none"> 一時集合場所ごとに班を形成するなど、身近な避難体制をつくっておく
集合人員の確認	<input type="checkbox"/> 一時集合場所ごとに集合者のリスト（可能な範囲で）等を作成しておく	<ul style="list-style-type: none"> 集合人員をリストで確認
避難場所と避難所	<input type="checkbox"/> 避難場所を確認しておく <input type="checkbox"/> 避難所を確認しておく	<ul style="list-style-type: none"> 火災延焼時には避難場所に避難 家が無事ならば在宅避難 家に被害がある場合は避難所へ
避難経路	<input type="checkbox"/> 避難場所と避難所に行く経路を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> 経路は通れなくなった場合を考慮して複数設定
避難に向けた情報収集	<input type="checkbox"/> 避難経路や避難先を決めるために必要な情報の収集方法を決めておく <input type="checkbox"/> テレビ（ワンセグ）や携帯ラジオなどで災害情報が得られるか	<ul style="list-style-type: none"> 一目で町内の被害状況を把握できるマンションに登るなど
避難先と避難経路を選択して避難開始	<input type="checkbox"/> 避難先までの経路を歩いて危険箇所をチェックしておく	<ul style="list-style-type: none"> 班長など、先導者が誘導
声をかけながら避難	<input type="checkbox"/> 声かけに便利なものを用意しておく <input type="checkbox"/> 担当者を決めて持ち出せるようにしておく	<ul style="list-style-type: none"> 拡声器、メガホン、要配慮者の名簿やマップなど
要配慮者への手助け・支援の要請	<input type="checkbox"/> 要配慮者の手助け方法や支援要請先を調べておく	<ul style="list-style-type: none"> 警察、消防団などへ連絡 民生・児童委員との連携
救出・救助の支援	<input type="checkbox"/> 防災倉庫等に、救出搬送資機材（パール、ジャッキ、のこぎり、担架、車いす、リヤカーなど）が調達できているか	<ul style="list-style-type: none"> 支援は可能な範囲で 区民レスキュー隊の結成についても検討していく
避難先で町会単位で安否の確認	<input type="checkbox"/> 避難先では、町会単位で集合し、安否確認することを決めておく	<ul style="list-style-type: none"> 避難先で班長が集まって町会全体の安否を確認 避難していない在宅避難者もできるだけ把握
行方不明者の救助・救援の要請	<input type="checkbox"/> 救助・救援の要請先を調べておく	<ul style="list-style-type: none"> 区、消防団、警察などへ連絡
応急対応一段落後※、町会の災害対策本部を設置	<input type="checkbox"/> 町会の災害対策本部の組織と役割分担を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> 救命救助、緊急避難等の応急対応が優先
避難所の運営	<input type="checkbox"/> 避難所運営体制を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> 町会を超える場合もあり
帰宅困難者への対応	<input type="checkbox"/> 帰宅困難者の一時滞在施設を把握しておく	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅困難者には一時滞在施設の開設場所を伝える

※ 町会の災害対策本部の設置は応急対応一段落後を想定しましたが、災害の状況に応じて臨機応変に対処してください。

(2) 体制づくり

① 災害対策本部の役割分担

- ・ 役割分担を明確にし、訓練を通じて、地域の防災力を向上

【今後の取組み】

- ・ 当初は、関原三丁目町会の実情（マンパワー等）に応じた最低限の編成とし、段階的に充実することも検討
- ・ 役割分担にあたっては、既に決まっている避難所運営の役割との整合性も考慮
- ・ 一定の震度以上で、災害対策本部メンバーは、一時集合場所に参集するなどルーラル化の検討

【災害時の役割分担のイメージ例：避難所運営の役割との関連性も考慮したケース】

最低限の体制	目指す体制	平常時の役割	災害時の役割	避難所運営の体制
本部長 (会長)	本部長	・ 各班の統括		本部長・ 副本部長
副本部長 (副会長)	副本部長	・ 本部長の補佐、代理		各部部长等
総務部	総務部	・ 防災資機材の備蓄、保守管理	・ 庶務全般 ・ 連絡調整 ・ 町内の秩序維持、防疫活動の協力	庶務部
情報部	情報部	・ 防災知識の普及、高揚	・ 災害防止広報実施 ・ 災害情報の収集 ・ 避難情報等の伝達	
防火部	消火部	・ 初期消火訓練 ・ 出火防止の徹底	・ 初期消火活動 ・ 出火防止、出火警戒	施設管理部
	安全・点検部	・ 巡回点検 ・ 危険箇所調査	・ 巡回点検 ・ 危険箇所調査	
避難誘導部	避難誘導部	・ 避難場所、第一次避難所、避難経路の確認 ・ 避難訓練	・ 避難誘導活動	
	要配慮者部	・ 要配慮者の把握	・ 要配慮者の安否確認、搬送の協力	
救護部	救出・救護部	・ 応急手当知識普及 ・ 応急救護訓練	・ 負傷者等の救出、救護活動	救護衛生部
給食部	給食部	・ 備蓄物資の調達・点検 ・ 個人備蓄積の啓発活動 ・ 炊き出し訓練	・ 救援物資の確保、搬送、配分 ・ 炊き出し、給食、給水活動	物資部

② 初動の体制及び内容

- ・地震発生時には、関原三丁目町会として下記の活動を想定

【地震発生時の対応】※想定事項

区分	町会として想定される事項
活動拠点の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・震度5強以上の地震が発生した場合、町会役員は、家族及び自宅の安全を確認したのち一時集合場所等に参集 ・地区（班）を単位とした初動活動の体制を検討
被害状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・役員は一時集合場所等に参集するまでの経路周辺の火災発生、道路閉塞、家屋倒壊等の被害状況を目視で確認し、参集後に各自報告 ・ラジオ、テレビ、消防署・区役所からの連絡等の正しい情報を集約し、町会員に情報を提供
安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・震度5強以上の地震が発生した場合に、町会員が無事を知らせる仕組みづくりを検討（平常時において「黄色い旗」などを配布しておき、それを掲示するなど）
初期消火活動	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時には、消火器、可搬消防ポンプ（C級）、スタンドパイプなどの資機材を活用した消火活動を実施 ・初期消火の限界を超えた場合（建物火災では、天井に炎が回っていない状態が初期消火の限界）は、直ちに避難に切り替え
救出・救護活動 ※関原三丁目町会としてできることを今後検討	<ul style="list-style-type: none"> ・住民等からの被害状況、安否情報に基づき、必要に応じて、地域の助け合いによる救出活動を展開 ・救出した負傷者を安全な場所に移動し、応急手当等を実施
避難誘導活動	<ul style="list-style-type: none"> ・延焼火災の発生を確認した場合は、避難場所への避難を開始 ・延焼火災の発生方向を考慮し、適切な避難路を選択 ・高齢者等の避難を支援 ・避難場所の集合場所は事前に選定
行政等関係機関との連絡・要請	<ul style="list-style-type: none"> ・被害状況や危険箇所などを消防署、警察署、区役所に連絡

【今後の取組み】

- ・新たな一時集合場所（関原公園、関三児童遊園等）の検討
- ・近隣住民が一時的に集合できる場所の検討
- ・役員以外の町会員が携われるような町会内の体制、役割分担、情報伝達の方法を検討
- ・高齢者等の避難の支援、共助の方法について検討

③ 資機材・備蓄品等の備え

- ・計画的な資機材・備蓄品の整備・購入等を検討する（例えば、毎年度の区の補助金を活用して購入計画等を検討）

【現在の資機材の状況】

資器材など	配置場所
中学生用消防隊器具（D級ポンプなど）	第七中学校
可搬消防ポンプ（C級）	関原公園
スタンドパイプ	関三会館 倉庫

④ 防災訓練

- ・年度当初に町会活動の年間スケジュールを作成する際に、防災訓練を計画し、町会員に周知
- ・現在、定期的実施している訓練を継続するとともに、町会員全員がより参加しやすい、実践的な内容とすることを検討（開催の規模感についても検討）
- ・近隣の事業所等との連携強化を図るため、合同での防災訓練を検討
- ・年中行事となっているイベントの企画・準備の会合を行う際は、防災について学ぶ機会や防災サポーターの募集活動などを組み込むことを検討
- ・消火など防災技術の向上を図るため、消防団と連携した訓練等の実施を検討
- ・消火器やスタンドパイプ、可搬消防ポンプなどを使った定期的な訓練の開催を検討

【今までの活動】

訓練	内容
避難所運営訓練 （第七中学校、関原小学校）	避難所運営会議
初期消火訓練	区民消防隊

⑤ 防災についての定期的な話し合い

町会の通常の集会等を利用して定期的に防災についての会議等を実施

【今後の取り組み】

- ・町会の年間スケジュールで、防災について話し合う機会を明記
- ・町会での話し合いを進める上では、防災に関する情報（行政の防災関連制度含む）も重要なことから、必要に応じ、区に出前講座等の職員派遣を依頼

（議題例：下記から意見交換しやすい内容を選択）

- ・地区防災計画における今後の取り組み内容について
- ・災害時の初動活動を地区単位で行う仕組みについて
- ・新たな防災訓練の企画について
- ・消防団と区民消防隊の連携について など

※ 様式・資料編

資料 1 様式集

参考様式 1 緊急時連絡先一覧表

区分	連絡先	連絡先担当部署	TEL
緊急連絡先	区役所		
	消防署		
	警察署		
	電気		
	ガス		
	上水道		
	下水道		
	電話局		
避難関係	第一次避難所 (第七中学校)		
	病院		

参考様式2 備蓄品リスト

区分	品名	規格	数量	保管場所	点検日
食糧					
水					
日用品					
消火用具					
救出救助 用資機材					
その他					

参考様式3 町会年間スケジュール

- 年間スケジュールは任意様式とする。
- 従来、町会で運用してきた年間スケジュールに、防災関係の予定（防災訓練等）を盛り込むものとする。

年間スケジュール（年度）（例）

年	月	町会スケジュール	防災関係スケジュール
年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
年	1月		
	2月		
	3月		

防災区民組織役員名簿

役 職	氏 名	住 所	電 話
本部長（会長）			
副本部長 （副会長）			
総務部	部長		
	副部長		
情報部	部長		
	副部長		
防火部	部長		
	副部長		
救護部	部長		
	副部長		
避 難 誘導部	部長		
	副部長		
給食部	部長		
	副部長		

資料 2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」

「足立区防災アプリ」は、防災関係の機能を一つにまとめたスマートフォン対応アプリです。令和 4 年 4 月にリニューアルしました。



このアイコンが目印！



※画像はイメージです

【足立区防災アプリの機能】

- ① 避難所の開設・混雑状況をマップ付き、リアルタイムで知ることができます。
- ② 非常時の情報をプッシュ通知でお知らせします。
- ③ GPS 機能により、地図で現在位置、避難所の位置などを確認できます。
- ④ 各種ハザードマップや防災マップを搭載しています。

ダウンロードはこちらから⇒ iPhone 端末

Android 端末



同内容の PC サイト（足立区災害ポータルサイト） <https://bosai.city.adachi.tokyo.jp/>

資料 3 A-メール（足立区メール配信サービス）

区政情報や子どもの安心情報など、足立区についての様々な情報を、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンのメールアドレス宛にお送りします。

足立区ホームページや下記のメールアドレスに空メール（本文に何も書かずに送るメール）を送信し、送られてきたメールに表示された URL にアクセスし、登録することができます。

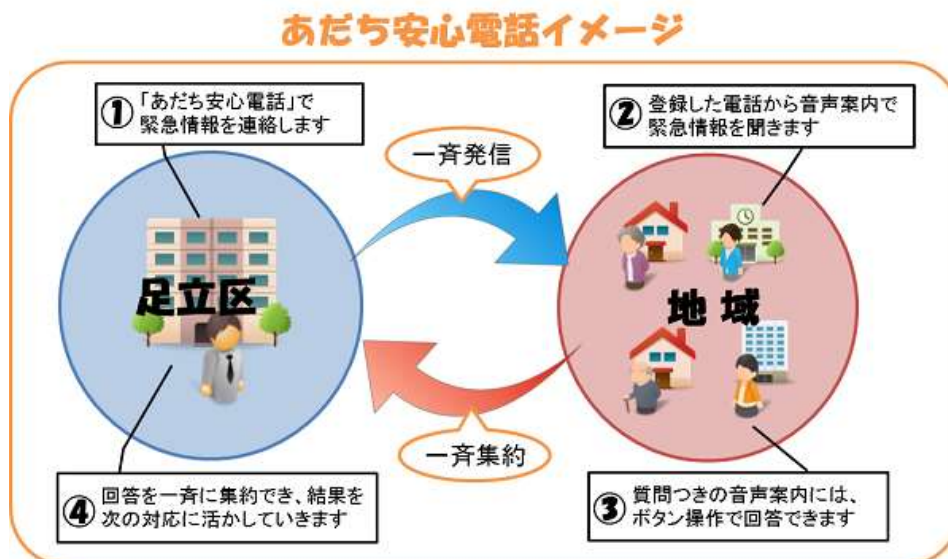
t-adachi@sg-p.jp



- ・「災害情報・気象警報」「大雨・洪水注意報」「雷注意報」で配信される警報・注意報や、「地震情報」「河川の増水氾濫情報」は、気象庁の発表と連動させ、自動的に配信をしています。

資料4 あだち安心電話

河川の水位状況や避難所開設情報等を確実にお届けするため、電話を活用した情報伝達システム「あだち安心電話」を導入し、希望するすべての区民の方（事業者を含む）の登録を随時受け付けています。いざという時の準備として、ぜひご登録ください。



下記の方法で申込むことができます。

- ① ホームページ「登録申込みフォーム」でご登録



- ② 報道広報課（足立区役所本庁舎南館9階）または、各区民事務所（中央本町区民事務所を除く）に直接「登録申込書」をご提出ください。

- ③ 「登録申込書」を報道広報課にご郵送ください。

【申込書郵送先】

足立区報道広報課 デジタル情報・広告係
〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1
TEL：03-3880-5514

資料 5 感震ブレーカーの設置助成

足立区では、災害時に避難所等へ避難している間、電気が復旧した際に発生する「通電火災」対策に有効な手段として、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」を設置した場合に、費用の一部を助成する制度を設けています。

感震ブレーカーは、震度 5 強相当の地震をセンサーが感知したとき、警報を発し、約 3 分後にブレーカーを落として、電力供給を遮断する器具です。

設置助成をうける要件は次のとおりです。

(1) 特定地域（建物倒壊危険度ランク図において、特に緊急的な安全対策が望まれる地域）であること → 関原地区は対象となっています。

(2) 対象世帯

① 一般世帯

特定地域内にある住宅で居住する個人もしくは賃貸住宅所有者（法人を除く）

② 特例世帯

上記①一般世帯のうち、次のいずれかに該当する世帯もしくは賃貸住宅所有者

- ・ 65歳以上の方が含まれる
- ・ 要介護者が含まれる（要介護 3～5）
- ・ 障がい者が含まれる
（身体障害 1～4 級、精神障害 1～3 級、知的障害愛の手帳総合判定で 1～4 度）
- ・ 非課税者のみ

詳しくは、足立区ホームページ（感震ブレーカーの設置助成）をご覧ください。または下記の担当窓口にお問い合わせください。

【問合せ窓口】

足立区建築防災課耐震化推進係
（足立区役所本庁舎中央館 4 階）
TEL 03-3880-5317（直通）

資料 6 防災無線のテレホン案内

足立区では、災害時等に速やかに情報を伝達する手段として、防災行政無線屋外拡声装置（スピーカー）を設置しています。「放送が聞き取れなかった」「もう一度聞きたい」ときに、放送内容を電話で確認することができるサービスが、「防災無線テレホン案内」です。

ご利用方法

(1) 下記の電話番号にお電話ください。

足立区防災無線テレホン案内：0120-966-944

(2) 24 時間以内に放送された最新の放送が繰り返し流れます。

(3) 通話料は無料です。

※ 防災無線の放送内容は、下記ホームページからも確認できます。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/cgi-bin/bousai/list.cgi>



資料 7 足立区 LINE 公式アカウント

足立区では、令和 2 年 9 月 14 日に「足立区 LINE 公式アカウント」を開設しました。

「足立区 LINE 公式アカウント」では、災害に関する情報（避難指示や避難所開設情報等）や緊急情報などのお知らせをリアルタイムに発信します。情報を受け取るには、SNS アプリ「LINE（ライン）」での友だち登録（利用者登録）が必要です。いざという時に備えて、ぜひご登録ください。

ご利用方法

(1) ご利用には「LINE（ライン）」での「友だち登録」が必要です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/hodo/line/index.html>

(2) 主な配信情報

- ・ 台風や地震などの災害に関する情報（避難指示や避難所開設情報等）
- ・ 緊急でお知らせしたい重要な情報
- ・ 「あだち広報」発行情報（月 2 回）
等々

順次、便利にお使いいただける新たなサービスを検討していきます。

(3) 災害情報など緊急でお知らせしたい重要な情報は、LINE、A-メールどちらにも配信します。



Memo